



越中福岡 の 菅笠製作技術 保存会通信

— 国の重要無形民俗文化財指定 —

2014年1月 No.16

【発行】越中福岡の菅笠製作技術保存会

〒939-0192 高岡市福岡町大滝12
福岡総合行政センター 地域振興課内
TEL.0766-64-5333 FAX.0766-64-5344



★かさぼんこの豆知識★ 越中福岡の菅笠は、全国シェアの約9割を占めているにゃん。日除け・雨具、農作業や道中具以外にも、伝統の祭りや民謡・時代劇など、日本の伝統文化には欠かせない菅笠は、とても重要にゃん！



頌春

越中福岡の菅笠製作技術保存会
会長 木村昭二

寒さ厳しき折柄、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私達の保存会も国の重要無形民俗文化財に認定されてはや五年になりましたが、昨年10月31日に「富山県伝統工芸品」に指定され、その翌日には北日本新聞社から「地域社会賞」が贈られました。誠に嬉しい限りでした。近年、後継者不足が問題になっておりましたが、最近は新しい人が増えつつあり、明るさが見えてきました。私達も菅笠業界の発展のために元気で頑張りましょう。

菅笠が県の工芸品指定

県は北陸新幹線開業に向けて再なる伝統産業の発展を目指し、10月31日（木）県庁にて、越中福岡の菅笠・越中瀬戸焼・高岡鉄器・高岡仏壇・とやま土人形・富山木象嵌の6点を「富山県伝統工芸品」に指定し、石井知事から指定書が交付されました。

今年の2月13日（木）～18日（火）に、東京池袋の東武百貨店池袋店で開催される「伝統的工芸品展 WAZA2014」では、今回指定された菅笠などが展示販売されます。今後、有磯海サービスエリア（上り）でも展示販売が予定されています。



深江にスゲ栽培指導



深江菅田保存会よりスゲ栽培の指導の依頼があり、保存会員が9月18日（水）大阪市東城区深江南に出向きました。平成19年からスゲ栽培を始めた深江菅田保存会。刈取りは6回目で、年々スゲが細く丈が短くなるのが悩み。当保存会のベテランスゲ栽培者の中島明理事と小林武之さんが良質なスゲ栽培を目指し、土質・肥料・植え方・間引きのコツなどを熱心に指導しました。

スゲ生産組合 設立！

8月28日（水）、スゲ栽培農家によるスゲの生産拡大・技術向上を目的とした「越中福岡スゲ生産組合」が設立しました。組合に加入すると補助金等の申請事務、苗の供給・斡旋などのメリットがあります。新たにスゲを栽培したい方、大歓迎です！

— 研修会のご案内 —

「伊勢神宮の御装束神宝について
— 威儀具、「菅御笠」を中心に —」

【日時】2月27日（木）10:30～

【場所】Uホール内 文化ホール

※伊勢神宮の宮司から直接お話を聞く
またとない機会です。申込み不要・聴
講無料。どなたでも参加できます。

【問合せ先】越中福岡スゲ生産組合
事務局：J Aいなば福岡支店内
TEL. 0766-64-8600 営農経済課：山崎

福岡高校 菅笠に関する郷土史学習

福岡高校で郷土史学習が行われ、一回目の9月24日(火)は、文化庁伝統文化課 文化財調査官の石垣悟さんを講師に招き、「なぜ福岡町は日本一の菅笠の産地になったのか」をテーマに、福岡町に良質なスゲが自生していたこと、笠骨の材料となる良質な竹が手に入りやすかったことなどを説明してくださいました。

石垣さんとは菅笠が国の文化財指定を受けた時からのご縁なんです！

二回目の10月18日(金)は「菅笠の製作技術を学ぶ」をテーマに、笠骨職人の木村昭二会長、笠縫い職人の谷口信子さん(シカケ担当)、宮崎光子さん(ノズケ担当)、赤尾節子さん(笠縫い担当)が、文系コース(地理歴史選択)2年生67名に、伝統の技の実演と体験を行いました。体験をした学生は、笑顔で「面白かった」、「竹を割るときの力加減が難しかった」、「職人さんはすごい！」などと感激していました。



笠骨づくり体験教室

10月20日(日)とても寒い中、講師の中嶋尋之さんの作業場で、笠骨づくり体験教室が行われました。金沢市の越野裕さんは、新聞で菅笠の記事を見て興味を持ち、菅笠づくりを体験したいと保存会



に連絡をしてくださり、今回の受講となりました。受講者8名は、竹を割り丸めてガワボネを作り、中骨を取り付けて一尺6寸の角笠を、講師の中嶋さんと鋤田芳次さんから学び、受講者達は「難しいけど面白い!」、「この笠骨を使って笠縫いも体験したい」と意欲的でした。

福岡小学校 バケツスゲ植え付け

事前に手やシャベルを使って土を掘り起こし、苗床づくりをしたバケツに、10月17日(木)秋晴れの中、福岡小学校5年生による、スゲの植え付けが行われました。スゲ栽培指導者の大島清さんが、斜め45度に植えるコツを優しく教えました。児童達の瞳は、菅笠づくり職人を目指して!?!、夢と希望にキラキラと輝いています。



まなびっこフェスティバル

高岡市二上まなび交流館で「第5回まなびっこフェスティバル」が10月5日(土)に行われ、約660名の親子がクラフト工作や活動発表を楽しみました。保存会の会場では、講師の中島

栄子さん・城山ミキさん・越後喜代さん・山本冷子さん・子吉麗子さん・神代則子さんが、ミニ菅笠とコースターづくりを76名の子供たちに指導し、ミニ菅笠づくりでは、順番待ちの列が出来るほどで、講師の皆さんは休憩もとらずに頑張りました。



女性用笠の試作

2015年3月の北陸新幹線の開業に合わせて、越中福岡の

菅笠のブランド化を図り、福岡総合行政センター内に昨年設置した「福岡の菅笠ブランド化小委員会」が、伝統工芸の魅力を国内外に発信するため、新たに女性用の菅笠「乙女笠(おとめかさ)」3点を試作しました。

従来の菅笠よりもつばを広げて日除けの効果を上げ、スゲを編んだりボンに色を塗装したアクセサリを用いて、お洒落に仕上げました。スゲの特徴は、防水・防虫・抗菌作用があるといわれています。このような特徴を活用し、職人、問屋等の菅笠関係者や関係団体と協議しながら新しい製品として打ち出せないか検討を進めていきます。

